

<p>教育目標</p>	<p>『 高い志をもち 自ら考え 行動する生徒の育成』</p> <p>【めざす生徒像】&lt;生徒につけたい資質・能力&gt;</p> <p>(1) 主体的に学ぶ生徒&lt;「主体性」&gt;</p> <p>(2) 思いやりのある生徒&lt;「伝えあう力」&gt;</p> <p>(3) 逞しい生徒&lt;「やりぬく力」&gt;</p>
<p>研究主題</p>	<p>「自分の考えを広め深める学習指導の在り方」 ～対話場面の工夫を通して～</p>
<p>主題設定の理由</p>	<p>昨年度は、研究主題を「自分の考えや思いを豊かに表現できる生徒の育成」とした。主に、学習成果の発表の場面やペアワーク、グループワーク等で伝え合う学習場面を設定し、総合的な学習の時間や各教科等の学習活動において、生徒が相手に伝える力の向上に一定の成果を見ることができた。</p> <p>一方で、小中一貫生徒アンケート（12月）において「よくあてはまる」と回答した生徒は、設問「相手のことを考え、わかりやすくまとめて表現しようとしている。」について19.4%、「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。」について45.2%であった。このことから、学びを深める協働的・対話的な学習活動において課題が大きいと言える。さらに、実際の授業観察で、考えを交流することに留まっている状況がある。</p> <p>そこで、今年度は、お互いの考えの発表交流に留まらず、相手の考えを訊いたり（尋ねたり）、根拠を明らかにしたりするなど、すでに各教科等で取り組んでいる様々な効果的な指導方法を単元計画に取り入れ、「自分の考えを広め深める学習指導の在り方～対話場面の工夫を通して～」に設定した。</p>
<p>研究仮説</p>	<p>生徒同士の協働や他者との対話を通して、見通しを持ったり粘り強く考えたりできる教育活動を進めていけば、自分の考えを広め深める生徒を育成できるであろう。</p>
<p>研究推進の方法・方策</p>	<p>対話的な学習活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○協働学習（ペア・グループ）の活用</li> <li>○タブレット（iPad）の活用</li> <li>○根拠を明らかにする（発問、自己内対話）</li> <li>○疑問点について、訊く・尋ねる</li> <li>○教材との対話</li> <li>○過去や未来の自分との対話</li> </ul>
<p>検証方法</p>	<p>① 「総合質問紙調査 i-check」、小中一貫アンケート</p> <p>② 全国学力・学習状況調査、三次市学力到達度検査</p> <p>③ 生徒アンケート</p>